

MIND TRAIL 奥大和 心のなかの美術館 東京記者会見 プレス資料



メインビジュアル デザイン：上西祐里

MIND TRAIL 2023年コンセプト Competency/人が集まり力となる

MIND TRAILは今から3年前の2020年、コロナ禍における観光復興の一環として開催しました。作品を通して奥大和の雄大な自然を体感するために何時間もかけて歩く芸術祭は、大きな打撃を受けていた奥大和の観光の活性化に寄与することができました。

奥大和に集まるアーティストや来訪者の視線が芸術祭にだけでなく地域やその産業、伝統文化にも向けられ、MIND TRAILは奈良を外からアップデートする役割を担っている芸術祭であると、回を重ねるごとに感じています。

その目的をより明確化できるよう、3回目の開催から具体的なテーマを掲げることにしました。

それによって、MIND TRAILの構造を改めて見直すことができたとともに、地域と来訪者と作品とアーティストの4つの関係性が新たに構築されました。MIND TRAILのテーマは、関わる人全ての共通の哲学として意識されているのです。

4回目の開催では、Competency（能力）をテーマとします。

人それぞれが元々持っている力が、地域の方々や作品や自然と深く交わり、奥大和の活性化にさらなる力を加えていって欲しい。そのような思いで今回のテーマを考えました。

地域に暮らす人々の素晴らしさと資源に改めて光をあて、開催地域では個々人が持っている才幹や感性をいかに発揮できる場が生まれ、来訪者は交流によって芸術祭や観光以上の体験を得、経験値を高められるような場になることを期待します。

小さな行動はやがて交わって大きな「交動」になります。MIND TRAILも、関わる全てを巻き込む強い力を持った芸術祭に発展し続けていきたいと考えています。

MIND TRAIL 奥大和 心のなかの美術館 プロデューサー 齋藤精一（パノラマティクス主宰）



齋藤精一 プロフィール

1975年 神奈川県生まれ。建築デザインをコロンビア大学建築学科（MSAAD）で学び、2000年からニューヨークで活動を開始。Omnicom Group傘下のArnell Groupにてクリエイティブ職に携わり、2003年の越後妻有アートトリエンナーレでのアーティスト選出を機に帰国。2006年 株式会社ライゾマティクス（現：株式会社アブストラクトエンジン）を設立。社内アーキテクチャー部門『パノラマティクス』を率い、現在では行政や企業などの企画、実装アドバイザーも数多く行う。2023年グッドデザイン賞審査委員委員長。2025年大阪・関西万博EXPO共創プログラムディレクター。2023年D&AD賞 デジタルデザイン部門審査部門長。

Photo. Muryo Honma (Rhizomatiks)

MIND TRAIL 開催エリア、エリアディレクター、参加アーティストについて

吉野町

エリアテーマ：^{あう}逢

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の起点となる吉野。町域の一部は吉野熊野国立公園、吉野川・津風呂県立自然公園に指定され、春には約3万本のシロヤマザクラが咲き乱れ、日本を代表する桜の名所として知られています。「吉野」は、古くは古事記、日本書紀、万葉集にも記述があり、歴史の大きな舞台にも幾たびと姿を現し、天武天皇や源義経、後醍醐天皇のゆかりの地としても有名。また、吉野林業地帯の一部を構成している吉野町は、吉野材の集散地として発達し、全国に銘木吉野材を供給してきました。



吉野町エリアディレクター：矢津吉隆（美術家、kumagusuku代表）

修験道の地として栄えてきた吉野を歩きながら感じたことは人々の営みについてでした。信仰、林業、観光、そして生活。様々な営みがこのまちの気分を醸成しています。今回、私が選んだアーティスト達はそれぞれ違いはあるにせよ、異なる分野のアーティストが複数人で活動を共にしています。コレクティブ、楽団、アートユニットなど呼び方はさまざまですが、彼らは1人では達成できないことを複数人で取り組むことで達成していると言えます。2020年、人と会うことを制限された世の中で、私は人と一緒に作品をつくることの意味に改めて向き合いました。そして、2023年の今、ようやく以前のように会える世の中で、今回総勢20名を超えるアーティストが吉野エリアで芸術祭に参加します。困難を乗り越えてどのような表現が生まれるのか楽しみです。



矢津吉隆 プロフィール

1980年 大阪生まれ。京都市立芸術大学美術科彫刻専攻卒業。京都芸術大学専任講師。京都市立芸術大学芸術資源研究センター客員研究員。京都を拠点に美術家として活動。また、作家活動と並行して宿泊型アートスペースkumagusukuのプロジェクトを開始し、瀬戸内国際芸術祭2013醬の郷+坂手港プロジェクトに参加。主な展覧会に「青森EARTH 2016 根と路」青森県立美術館(2016)、個展「umbra」Takuro Someya Contemporary Art (2011)など。企業や自治体、大学などと連携して展覧会の企画や仕組みづくりなどを行っている。

吉野町エリア参加アーティスト

北山ホールセンター、kumagusuku / 宇野湧 + 武内もも、齋藤精一、sign play、副産物楽団ゾンビーズ、副産物産店（山田毅+矢津吉隆）、MAGASINN（CORNER MIX、井上みなみ、武田真彦+糸魚健一）

スペシャル・コンテンツ Rhizomatiks

下市町

エリアテーマ：^{むすぶ}結

下市町には緑の山々と澄みきった清流に彩られた自然環境と、長い歴史に育まれた文化があります。奈良県のほぼ中心、吉野郡の北西に位置し吉野山地と大和平野を結ぶ交通の要衝、市場町として栄えてきました。農業（特に柿などのフルーツや梅）・林業（吉野杉・桧）・商業（市場町）・工業（特に割箸などの木工業）がある奥ゆきのある町です。



下市町エリアディレクター：SKWAT

コロナが収束する今、これまでのMIND TRAILの在り方が少し変わるかもしれません。これまででは、自分や自然との対話を重視して来たからこそ成り立っていた鑑賞型の展示。ただ、今求められるのは現地の人達とより深く協業し、MIND TRAILをより深い階層でともに創り上げることではないでしょうか。下市町の営みや生態系にSKWATが介入することで、普段隠れている芸術性を顕在化させ、それらが町の資産となり、自走のきっかけになってくれると信じています。



SKWAT プロフィール

SKWATは都市の遊休施設を一時的に占有し、一般へ解放する運動として2019年に始動。現在では、物理的な空間のみならず、オンラインや公共電波にも範囲を拡大し、場づくりや発信活動に取り組んでいる。チーム構成としては各々別のバックグラウンドをもった3名のコアメンバーの他、プロジェクトベースに様々な人々とコラボレートし柔軟にチームを編成。その手法は展示、出版、物販、レクチャーとさまざまだが、いずれも不完全なものから生じる価値の転換に焦点を当てて展開している。

下市町エリア参加アーティスト

SKWAT、齋藤精一

下北山村

エリアテーマ：集^{つどう}

下北山村は奈良県の南東部に位置し、西側には釈迦ヶ岳をはじめとする大峯山系が連なっているほか、2004年に世界遺産登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる「大峯奥駈道」が縦走しています。村内の大部分が吉野熊野国立公園にも指定され、江戸時代には「大峯修験」の一大拠点であった集落「前鬼」を含め、手つかずの自然が溢れる緑豊かな村。森に育まれた透明度の高い川が流れ、海から近いこともあり、山と海の両方の恵が受けられる奈良県でも珍しい村。古くから自家野菜として栽培されてきた下北春まなは、下北山村の特産物のひとつ。



下北山村エリアディレクター：

浅見和彦（プロジェクト・ディレクター）

下北山村は、村の大部分が吉野熊野国立公園に指定されるなど自然豊かな美しい場所で、村内を歩くと、山が見えるし、川の水は透明度が高いし、やわらかい時間が過ぎていくのですが、自然豊かだけでなく下北山村のすごさで、役行者との前鬼後鬼の逸話や、ツチノコの伝説、民俗誌によると狐や狸に化かされた経験がある人がたくさんいたなど、興味深い話が多い場所です。そのような魅力的な場所で、様々なアーティストと一緒に現地ならではの体験をご用意しますので、是非いらしてください。



浅見和彦 プロフィール

UXリサーチ、サービスデザインからXR技術を活用したデジタルコンテンツの制作など、プロジェクトのデザインやディレクションを担う。近年の主要な取り組みとして、Psychic VR Lab / PARCO / loftworkの共同プロジェクト「NEVVUE project」の全体統括、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が設立した「シビック・クリエイティブ・ベース東京（CCBT）」のアーティストフェロー、デザインコレクティブ「SandS」の代表などが挙げられる。

下北山村エリアディレクター：ゴッドスコピーオン（メディアアーティスト）

下北山村のエリアディレクターとしてお招きいただき、光栄に思います。

下北山村は、飛鳥時代に修験道の開祖である役小角によって開かれた大峯奥駈道の釈迦ヶ岳、涅槃岳のそばに位置しています。修験道では大峯の山々を神と仏が融合する山界曼荼羅と見立てます。古道は、熊野から吉野まで80kmに渡り、標高は900~1800m級の山々を越える修行の道であり、それは日本最古のロングトレイルとも言えるでしょう。

下北山村の発生の歴史に思いを馳せると、それは1400年前に遡ります。かつて役小角は奥駈道を開き、山で龍樹（ナーガールジュナ）と出会い神通力を手に入れ、人々のために蔵王権現を顕現し、また前鬼と後鬼という鬼を使役します。使役された鬼はやがて人間になり、前鬼という宿坊を形成しました。その場所に修験者たちが集まり、やがて宿坊のある山の中腹から降りた人たちが村を築きました。さらに時代を遡り今回のトレイルコースにもなる明神池に目を向けると、そこは約20万年前に形成された河床を元に、数万年から数十万年前に起きた山や崖の大崩落によって現在の形が作られたと言われていました。

MIND TRAILによってこのスペクタクルな山地に、皆さまとどんな景色を望むことができるのか今からとても楽しみにしています。



ゴッドスコピーオン プロフィール

主に形而上学や宗教哲学、テクノロジーを題材に、時間軸と空間軸のフレームの変化をテーマにした作品を制作。作品は都市や屋外、屋内、身体といった様々な空間で展開され、XR技術を利用したマルチメディア、横断的な作品を手がける。XRプラットフォーム『STYLY』を提供するPsychic VR Lab Co., Ltd. Founder Member/Senior Art Director。

下北山村エリアディレクター：吉田山（アート・アンプリファイ）

4回目となるMIND TRAILに、ゴッドスコピーオンさんと浅見さんと共にディレクターポジションとして参加させていただきます。地区としては奈良県の南部に位置する下北山村です。当方、現在は東京を拠点としておりまして、この芸術祭の舞台である下北山村までは電車等乗り継いで7時間、自動車ですと8時間という割と遠いと言える距離感です。そして、山歩きをベースとした企画ですので、都市での美術館やギャラリー等の建築内部空間ではない場所での取り組み方の構築を都市から村への移動の道中で移り変わる景色の中で発酵することになるかもしれませんし、我々にとってこの企画においてアートの定義や視点の発明や発見や変化が行われるか／行っていけるかが興味深いですし、我々がお声がけさせていただいたアーティストやプレイヤー方、村の方々との協働していくことでどのような景色や環境や関係が生まれていくかととても楽しみでなりません。私自身、現在は東京を拠点としておりますが、育ちは富山県でして、三方を山、一方を海で囲まれた土地でして、まさに大自然と呼べるスケールで生まれ育ちました。あの時に経験した山遊びの身体感覚と遠くに見えるアルプス連峰などからもたらされた空間の認識を再度呼び起こされることになると考えています。



吉田山 プロフィール

日常でのフィールドワークを基に、そのアウトプットとしてアートスペースの立ち上げや作品制作、展覧会のキュレーション、ディレクション、コンサルティングや執筆等の活動をおこなう。近年の主なプロジェクトとしては、The eyes of the wind/風の目たち(obscura,トビリシ,2022)、MALOU A-F(Block House,東京,2022)、のけもの(アーツ千代田3331屋上,東京,2021)、「芸術競技」+「オープニングセレモニー」(FL田SH,東京,2020)、「インストールメンツ」(投函形式、住所不定、2020)。2023 Atami Art Residenceディレクター。2022 シビック・クリエイティブ・ベース東京（CCBT）アーティストフェロー。

下北山村参加アーティスト

大小島真木、ゴッドスコピーオン、contact Gonzo、齋藤精一、SandS、花形模、Hertz (Discont + Riki Osawa)、松岡湧紀、やんツー+齋藤 帆奈+吉田山、yuge (hoge)

MIND TRAIL 奥大和 心のなかの美術館 開催概要

英語表記：MIND TRAIL OKUYAMATO Museum in your mind

会期：2023年9月16日（土）～11月12日（日）＊58日間

会場：奈良県 吉野町、下市町、下北山村

入場料：無料

主催：奥大和地域誘客促進事業実行委員会、奈良県、吉野町、下市町、下北山村

協力：永和実業株式会社、豊永林業株式会社、ほか予定 ※50音順

プロデューサー：齋藤精一（パノラマティクス主宰）

エリアディレクター：

吉野町エリアディレクター 矢津吉隆（美術家、kumagusuku代表）

下市町エリアディレクター SKWAT

下北山村エリアディレクター 浅見和彦（プロジェクト・ディレクター）、ゴッドスコピーオン（メディアアーティスト）、吉田山（アート・アンプリファイア）

参加アーティスト（50音順）：

大小島真木、北山ホールセンター、kumagusuku / 宇野湧 + 武内もも、ゴッドスコピーオン、contact Gonzo、

齋藤精一、sign play、SandS、SKWAT、花形禎、副産物楽団ゾンビーズ、副産物産店（山田毅+矢津吉

隆）、Hertz（Discont + Riki Osawa）、MAGASINN（CORNER MIX、井上みなみ、武田真彦+糸魚健一）、松岡湧

紀、やんツー+齋藤 帆奈+吉田山、yuge (hoge)

スペシャル・コンテンツ：Rhizomatiks

ウェブサイト：<https://mindtrail.okuyamato.jp>



アーティストの詳細はこちらをご覧ください。<https://mindtrail.okuyamato.jp/artist/>



会期中イベントについては9月上旬を目処にお知らせいたします。

広報用画像はこちら

https://drive.google.com/drive/folders/1VHwg33LY3uigCDqddW7i3mWgXinkJlI?usp=share_link

